

## 『神と語って夢ならず』

松本侑子著、光文社、1800円+税、四六判、364頁

◆著者より 小説の周辺について、簡単にご紹介させていただきます。

### 1) 主な舞台・隠岐について

領土問題「竹島」の自治体として有名ですが、地理と歴史は、あまり知られていないようです。島根県と鳥取県の沖に浮かぶ隠岐諸島は、無人島180と人の住む4つの島からなり、広大な海域を有しています。最大の島「島後」(巻頭に地図)は、佐渡島につぐ日本海第2の大きな島です。

江戸時代には、大阪～下関～北海道を結ぶ交易の北前船で栄え、年に2千隻が来島。物流の大動脈に位置していました。富農、裕福な商人は、京にのぼり、学問を修めています。

幕末は、ペリー来航の前より、多数の異国船が来島、「異人」が上陸し、自衛と異国排斥(攘夷)の気概がありました。中世には、鎌倉幕府を討とうとした後鳥羽上皇と後醍醐天皇が流され、島の気風は、倒幕と勤王です。

### 2) 背景 ～ 幕末の山陰

隠岐を治めたのは、対岸の出雲国松江藩(島根県)。松江藩松平家は、徳川家康の孫に始まり、葵の御紋をかかげる徳川親藩です。鳥羽伏見の戦いでは、幕府軍につき、薩長の新政府と敵対します。

となりの鳥取藩(鳥取県)は、藩主が水戸藩主の5男、最後の将軍・徳川慶喜の兄ですが、水戸学から勤王の思想をもち、鳥羽伏見では、新政府軍につきます。

このように、幕府側の松江藩、官軍側の鳥取藩が対立するなか、隠岐では勤王の庄屋が蜂起して松江藩を追放、自治を始める。この三つ巴の戦いの背後に、京の新政府が漁夫の利を狙います。

京、松江、鳥取のほか、河内(大阪府)、十津川(奈良県)、小浜(福井県)、東京も登場します。

### 3) 隠岐「騒動」

島民による松江藩追放と自治政府の樹立は、一般に「隠岐騒動」と称されますが、これは蜂起を武力弾圧した側の呼び名です。いっぽう、かつての島民たちは隠岐「維新」と書いています。本作でも、世直しの民衆蜂起を「騒動」とする立場を、とりませんでした。

### 4) 創作

『隠岐島誌』、参考書籍、藩のお触れ、政府の通達、裁判記録、未公開史料を元にしましたが、史実3割、創作7割の小説です。主人公の井上整介を「どのように書いてもよい」と、寛大なご許可を下された井上家ご当主の雅量のおかげで、自由に整介像を創りあげることができました。

### 5) 隠岐相撲の映画「渾身 KON-SHIN」

偶然ですが、1月12日全国公開の映画「渾身」は、隠岐相撲が題材で、オール隠岐ロケです。隠岐の美しい風景、古い伝統と人情を、ご覧になれます。本書に描いた隠岐・水若酢神社の土俵で、映画が撮影されています。余談ですが、ご参考まで。

それでは、本書のご高評、ご紹介、どうぞよろしくお願い申し上げます。

松本侑子